

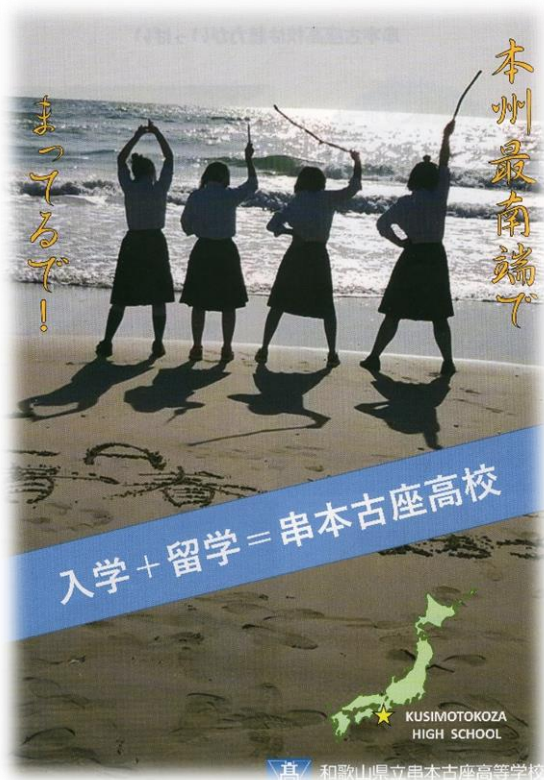
和歌山県立串本古座高等学校

広報くしこぎ

編集：発行：串本古座高等学校地域協議会

INDEX

- ・令和2年度7月～11月のトピックス …… 1～3
- ・地域協議会 …… 4～6



令和2年度二学期の動き

7月

○ 2020夏高校野球和歌山大会



高校野球も全国大会が中止となりました。7月23日～8月2日にかけて和歌山県独自の代替大会

が新型コロナウイルス感染症感染予防のため応援も保護者に限定される中実施されました。

本校は7月25日の2回戦が初戦となり、初戦は慶風高校に7-0で勝利しました。続く3回戦は残念ながら箕島高校に0-16で敗れましたが、ゲームセットまであきらめずに頑張っていました。

8月

○ マリンスポーツ プール実習



8月4日、5日 海洋実習前のプール実習を行いました。

今年度も串本ダイビング事業組合のインストラクターの方々のご協力によりマリンスポーツの授業が始まりました。資格取得に必要な学科試験を終え、プール実習、海洋実習と続きます。

○ 地域みらい留学2020

「第2回 地域みらい留学2020」をWeb会議システムを用いて実施しました。第1回（7月実施）に比べテーマ別学校説明会では本校への個別の質問も数多くいただきました。また、個別相談会へも多数ご参加頂きました。

第3回（9月）・第4回（10月）も



実施しました。回が進むにつれ質問もより具体的な内容となりました。

○ 吹奏楽部ミニコンサート



8月18日 昼休みを利用して吹奏楽部がミニコンサートを開きました。たくさんの生徒が教室の窓から顔を出して聞き入っていました。

9月

○ オープンスクールの実施



例年は8月上旬に実施していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校措置のため夏休みが短縮となり、開催が約1ヶ月半遅れでの実施となりました。

オープンスクールは生徒会の生徒が司会進行を努め、学校行事、クラブ活動や特色ある授業の説明を体育館で行い、説明会が終了するとクラブ活動を体験。



クラブ活動体験では、希望を募り弓道部・ソフトテニス部・女子バレー部・吹奏楽部・茶道部・演劇部・

CGS部の中から体験してもらいました。中でも特徴的だったのは、CGS部が行った小型ドローンの操縦体験でした。

○ 第2回学校運営協議会

第2回学校運営協議会では第6期きのくに教育審議会 答申「これからの県立高等学

校の在り方について」学校長が説明を行い、委員の方からは様々なお意見を頂くことができました。

○古座高校・串本古座高校資料館

O Bの方に自由にご覧いただけるよう、開館を目指して整備をスタートしました。開館時期は来年春を予定しています。

10月

○球技大会を実施

10月8日(木)、13日(火)に実施しました。当初は8、9日の予定でしたが台風が接近したこともあり、2日目の協



議を13日に延期して実施しました。

競技初日は個人戦として卓球とバドミントン(いずれもダブルス)を行いました。

2日目は団体戦としてドッジボールとバレーボールを行いました。どの競技も白熱した試合が展開され、応援に来たクラスの生徒たちも熱い声援を送っていました。

○遠足を実施



10月30日(金)天候にも恵まれ、遠足を実施しました。

1学年は熊野古道を歩き、2学年はアドベンチャーワールドに行き、3学年はシーカヤックに挑戦したり、バーベキューを楽しみました。



○コース・選択科目登録の説明

次年度に向けての準備を始めました。1学年はコースおよび選択科目登録、2学年は選択科目登録について教務担当より説明が行われました。

○就職激励会

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、就職試験のスタートが例年より1ヶ月遅くなりました。激励会では学校長から就職希望生へ「しっかり準備し、内定をもらえるよう」励ましの言葉がかけられました。

11月

○防災避難訓練を実施



11月4日(水)

11月5日の「世界津波の日」を前に防災避難訓練を実施しました。

生徒たちは緊急地震のアナウンスが流れると同時に机の下に身を隠し、避難場所への移動を促す放送が流れると指定された経路を通り、学校より高い避難場所に避難しました。

避難場所では、防災委員により点呼確認を行いました。すべての確認終了後、教頭および防災委員長の講評を行い訓練は終了しました。

○ にしき園にマスクを寄贈



11月12日(木)本校の生徒が介護の授業を通じてお世話になっている社会福祉法人串本福祉会 特別養護老人ホームにしき園さんに、主に調理実習が行えない期間の授業において制作したマスクを



寄贈しました。

○ 茶道部 お手前披露



例年は文化祭でお手前を披露していましたが、今年度はコロナウイルス感染症の影響により文化祭を中止したため、茶道部のお手前披露も実施できていませんでした。

お手前を披露するにあたり、人数を制限するために招待券を事前に配布し、感染防止対策を行い、お手前を披露しました。

○ 「税に関する高校生の作文」



11月19日(木)本校校長室において丸山あずみ(1年)さんの応募した「税金がないと生活はどうなるのか」が、公益財団法人 新宮納税協会より表彰されました。

表彰されました。

2学期に実施した実習を紹介

本校では、様々な特色のある授業を実施しています。その中から、2学期に実施した授業を紹介します。



はじめは、「マリンスポーツ」です。8月のプール実習から始まり、最終段階の海洋実習まですべての実習が天候に左右されることもなく無事終了することができ、晴れてライセンスを取得することができました。



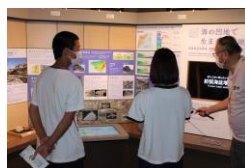
2つ目はつり「海洋環境」です。この授業は地域を教材にして学ぶ授業の一つで、11月には串本港で魚釣り体験し、串本港にはどんな魚が生息し釣れるのか確認しました。



3つめは「南紀食文化」です。この授業ではこれまでに、地元の食材を使ったレシピを作ったりしてきましたが、今回は古座川町でのゆず収穫を行い、収穫されたゆずがどのように加工されるのかを体験しました。体験後にはできあがった加工品を試食しました。



最後は串本デュアルです。この授業は例年2



学期に長期のインターンシップを実施しています。コロナウイルス感染症の影響で実施が危

ぶされましたが、各事業所のご協力のもと実施することができました。ご協力頂きました各事業所に感謝申し上げます。



串本古座高等学校 地域協議会



串本古座高校の将来は？

和歌山県教育委員会から諮問を受けた「第6期きのくに協育審議会」から答申が出されました。

減りゆく県内の人口、減りゆく中学生の数を考慮して、県内高校



の再編成のあるべき姿を示したものです。それによると串本古座高校は、将来「2クラス規模の小規模校」か、近くの大規模校の「分校」または「分校舎」が望ましいというふうに記されています。

地域協議会の会議の中で、委員さんからは「小さくても本校で」といった意見が圧倒的でした。これを受けて串本古座高等学校地域協議会の会長（田嶋串本町長）と副会長（西前古座川町長）も、ただちに県教育長と折衝を行っています。子どもたちにとってより良い教育環境を伝え残すため、地域の皆さまの声を県に届けていきたいと思っています。

地域とつなぐ

平成29年度から串本古座高校には、いくつかの学校設定科目という地域の資源を教材にした科目があります。その中の「水産生

物探究」で、9月に「古座川の漁業」と題した授業があり、講義をお願いしたところ、古座川町役場、古座川町漁業組合、古座川町観光協会の皆さんが講師として協力してくれました。



古座川流域の豊富な資源を教科書にして、「鮎釣りの話」「うなぎ漁の話」「古座川町漁業組合

の仕事」「魚の病気について」など、それぞれがパートを分担してお話をしてくださいました。古座川という川をひとつとってもこれだけの資源があり、「教材」があります。串本古座高校の生徒には、もっともっと地域を知って、地域を好きになってもらいたいと思います。地域協議会はこれからも串本古座高校と地域をつないで、魅力ある教科づくりをサポートしていきたいと思っています。

イルミネーションを計画中

コロナ、コロナで重苦しいムードの漂った1年でした。年の終わりに、「少しでも明るい話題を！」と、串本古座高校の生徒たちが校門付近にイルミネーションを計画中です。町おこし団体からの寄付金を原資にした「豊かな生徒づくり応援事業助成金」も活用する予定です。新年には「あのイルミネーションはよかったね」と話題になるように頑張りたいです。がんばれ串本古座高校生たち。

(注)「豊かな生徒づくり応援事業」は、寄付金を原資にした地域協議会の助成事業です。

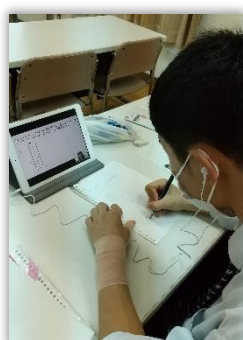
「くろしお塾」の取り組みを振り返って
塾頭 酒井 豊

和歌山県内で唯一の校内塾として「くろしお塾」がスタートしてから3年目を迎えています。今年度からは塾頭を配置して、自習室を整備し、講座を拡充することで「くろしお塾」を通年的に常時開講する取り組みを行ってきました。



この取り組みがどうであったのかを評価する方法は様々あるように思いますが、まずは量的な観点から利用者数について見てみると、1日平均20名の生徒が自習室を利用してくれています。

また、昨年度から準備を進めてきた「デジタルくろしお塾」は21名が受講し、英検・漢検講座も昨年までと比べて飛躍的に受講生が増加しました。このほかにも、リスニング対策講座や「和大オンラインくろしお塾」など新たな試みも多くの生徒が受講してい



ます。こうした取り組みの甲斐もあって4月から8か月間の受講者は延べ2,400人を超えました。昨年度までは受講者数が低迷していたことを顧みると、数の観点では高評価をつけられるかもしれません。

こうした量的増大に関連して興味深いことは、大学受験を意識した成績上位者の受講が大半を占めるだろうという準備段階での予想に反して、これまで学習習慣がなかった生徒の利用も多かったことです。「デジタルくろしお塾」については、大学受験に特化した内容のため受講者はすべてアドバンストコースの生徒ですが、それ以外の講座と自習室の利用者の半数はこれまで自主的に勉強に取り組んだことがなかった生徒です。生徒の多くが授業終了後の帰りの電車を待つ時間や、部活が終わった後の時間を活用して勉強に取り組んでいます。こうした利用の仕方をしてもらえることは、校内に塾があることの強みだと思います。



量的な観点の次に、質的な観点から捉えてみますと、2つの特徴が指摘できます。第一に1年生や2年生という早い段階で大学入試を意識して、受験勉強に取り組む生徒が増えたことです。今年度から大幅に変わっていく大学入試に対応するために、平日の放課後には1~2年生を対象にした「リスニング講座」を開講しており、そのほかの科目についても入試レベルの問題に触れる機会を増やしています。加えて英検・漢検の受験の推奨

とそれの対策講座を随時開講しています。

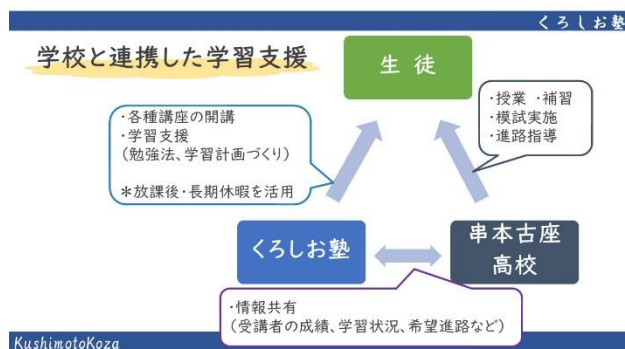
こうした大学入試を見据えた講座を拡充してきたことで、早い段階から大学受験を意識する空気感が高まってきています。



また自習室は全学年の生徒が利用しますので、受験真ただ中の3年生の姿を目の当たりにして、自分たちも頑張ろうという心持ちになっているのでしょうか。こうした先輩からの刺激を受けられるというのは、少人数校ならではのことでないでしょうか。

第二に「学び直し講座」がしっかりと動き始めたことです。学び直し講座自体は昨年度までも開講はされていましたが、実はあまり利用者がいませんでした。というのも、学び直しが必要となる生徒が一人で自発的に勉強を開始するというには精神的に大きなハードルがあるからです。ですが、今年度は成績不振の生徒が担任の先生に紹介される形で「学び直し講座」を受講しています。くろしお塾では①毎日勉強することと、②周りの人から応援されるような生活態度・授業態度を身につけることの2つを生徒と約束して一緒に勉強を進めています。こちらは受講生の数はまだまだ少ないですが、受講を開始したときに全科目で赤点だった生徒が、いまでは好成績を収めるようになったというケースも誕生しました。

このように振り返るとこの8か月間の取り組みは量的にも質的にも成果を上げられたと言えます。こうした成果の最大の要因は、校内の先生方との連携にほかありません。生徒への利用の呼びかけや、生徒の学習状況に関する情報提供があったからこそ、くろしお塾が機能的な働きを果たせたのだと思います。



今後も先生方との連携を密にして、より良い学習環境を作り上げていきたいと考えています。

また、先述したようにこれまでは学習習慣がなかった生徒の利用が多かったことは、“真剣に勉強できる環境”を用意すれば生徒たちは勉強に打ち込んでいけるということを示唆しているのではないのでしょうか。この「広報くしこぎ」を見てくれている中学生のなかにも、勉強をしたくない！とか、勉強が嫌いだと思っている人もいるかもしれませんが、実はまだ自分が気づいていない潜在的な欲求として、学びたいという意欲を持っているはず。あるいは、すでに高い目標をもってよりハイレベルな学びを求めている人もいるかもしれません。くろしお塾は“多様な学びの場”を提供するということをその使命とし、そのどちらにも対応していきます。

ぜひ串本古座高校に入学してくろしお塾を活用して学びを深めてみませんか？